

はじめに

熊本支部 支部長 東曜子

同窓会熊本支部懇親会のメインディッシュは、参加者おひとりおひとりの近況報告です。今年は集まれそうにないと判断した時、皆さんの顔を思い出しました。

5月のはじめに幹事会で連絡を取り合い、不安な気持ちで過ごす今こそ、会員同士が経験を分かち合って励まし合えるように、紙上で交流をしましょう！と決定しました。特別な時期を生きている支部会員の貴重な記録ができるかもしれない、そんな予感もありました。

直後に、同窓会本部から「支部活動助成金」の申請ができます、というお知らせを頂きました。昭和感覚の私は、自分達で印刷してホチキスで留めて、という手作り文集をイメージしていたのですが…お金の心配をしないで立派な文集が作れるんだ、と思うと力がわいてきました。会計担当の前川和代さんに経費見積を作成してもらい、企画書を付けて申請しました。ありがたいことに6月中旬「支部活動助成金交付」決定の通知を頂きました。この場をお借りしまして、津田塾大学同窓会に御礼を申し上げます。

今、どんな経験をし、何を考え、感じているかを、または、過去から現在に至るまでのご経験を、自己紹介を、中国料理の円卓を囲んで語るようなお気持ちで語っていただきたい。そのような趣旨のお願いを7月1日支部会員に郵送しました。飯野正子会長にもご寄稿をお願いしまして、玉稿を頂きました。

7月末から届き始めた原稿や、葉書に書いて下さった近況からは、同窓生のお人柄が伝わってきました。お先に読ませていただきましたが、みずみずしい文章に心が洗われたり、優しい心情に涙ぐんだり、さらっと書かれた辛さ悲しさに抑制の力を感じたり、驚くべき行動力に感心したり、心配したり、ホッとしたり、心を動かされる日々が続きました。懇親会には参加できない方々からのご報告もあり、たいへん嬉しく感じました。

「是非このことを書いて下さい」と編集部からお願いをしまして、会員を励ます人生の記録や、大先輩の思い出をつづって下さった方々もいらっしゃいます。御多忙なことを存じ上げながらも熊本日日新聞の記者をされているお二人には、ご経験を書いていただきました。葉書に書かれていた近況を、リクエストに応じて詳しく書き直して下さった方々も。お時間を頂戴しました。そして最後に、津田塾大学2年生の水俣裕月さんに「同窓会の支部で文集を作っているんですが、豪雨災害の体験を書いていただけませんか？」とお尋ねしました。

「書きます」即答して下さいました。「床上浸水」「全壊」を言葉でしか知らず、実態を思い描くことができなかつた私にとって、水俣さんが教えて下さった事実は衝撃であり、これまでの意識を変えるきっかけになりました。

7月末から8月末にかけて、状況は日々変化していきましたので、幹事会で話し合い、原稿は届いた順に並べることにしました。お寄せ下さった皆様に深く感謝致します。気持ちの通った、そしてプライベートなできごとに満ちた文集になりました。名簿同様、くれぐれも「取り扱い注意」でお願い致します。皆様のご無事とご健康をお祈りしております。